

夏季プログラム

私は夏季プログラムで4人の方のお話を聞いて、それぞれ印象的だったものがありました。

まず、義手作りの近藤玄大さんのお話で興味深かったことは、自分が左利きであることから日常生活に不便を感じていて、不便のない生活をしたという思いが将来の仕事につながったということです。そして「手がないことを隠さず、個性として出していきたい」と、あえて義手をカラフルにするなどその人用にカスタマイズしていく発想は凄いなと思いました。また、技術がデザイン・ビジネスとどう結びつくかを学ぶために1度ソニーに入社し、その後ほかの会社の方達と新たに exiii という企業を設立したそうです。これを聞いて私は、会社を辞めて新たに企業を設立することは相当な努力や決心が必要ではないかと思いました。

しかし、高校生の時点では、目の前のことだけに興味を持っていて、将来何をしたいか決まっていなく、だからこそ、ホームステイなど様々なことに取り組んだそうです。私も今の段階では、将来の夢が明確に決まっていなくて、色々な人、色々な考え、色々な価値観に触れ、何か自分の得意なことや、興味のあるものを見つけたいです。

最後に仰っていた「ものづくりは映画製作と似ていて、ものは世界共通言語だ」という言葉には、確かにそうだと感じました。ものを見れば、言語は通じなくても何を表しているかが分かるからです。私も国内だけでなく、世界に通じるような職業に就きたいと思いました。

次に、藤村峯一さんのお話からは、グローバル化について学び、グローバルが、例えば LINE・Amazon など、身の回りにたくさんあることに気づきました。今の世の中で大切なことは、「嫌われるのを恐れずに、自分の道を進むこと」で、テーマを見つけると、人生が楽しくなるそうです。さらに、グローバル化中は、外国ではなく、日本のことを知るべきだとも仰っていました。日本人が日本のことを知らないと、外国人との会話が成り立たないからです。私は今まであまり日本のことには興味を持っていなかったもので、これを機に日本文化や時事問題に関心を持ちたいです。

山田正実さんは、「外国に進出しやすい日本企業は何か」という質問に対し、「ボトムアップの良さを活かしつつスピーディーな企業や、競り合わせが多い自動車企業・電気製企業」と仰っていました。山田さんも、また、外国滞在を経験されていて、それぞれの国の良さを知れたり、視野が広がったりしたそうです。

最後に国際開発研究者協会の前川美湖さんにお話を伺いました。前川さんは公海についての制度を作ったり、ルワンダの森林地帯の生態系や住民について研究したそうです。今までの研究の中で最もやりがいがあったことは、国連で3年間話し合った問題が解決した

ときだそうです。また、アメリカで生まれてよかったことは、大人になってアメリカに行くことになったときに、以前住んでいたのが第2の祖国のようで行きやすいとのこと。夏季プログラムでお話を聞いて、どの方も、今の世中では自己主張が大事と仰っていました。私はあまり自己主張することは得意ではないので、社会に出る前にコミュニケーション力をつけて、自分の考えをはっきり言えるようにしておきたいです。また、高校生のうちしておくべきことは、英語の勉強や、本をたくさん読むことだそうです。今の段階で既に英語が苦手なので、日頃の英語の授業や家庭学習に集中して取り組みたいと思います。

企業・大学訪問

私たちのグループは東京大学附属動物医療センターを訪問しました。案内して下さった米澤先生にはとても詳しくセンター内を説明していただきました。

センターでは年間2万件、1日で60件の診断を行い、うち1日の初診は10件だそうです。また、診断に来るのはほぼイヌ・ネコで、私たちが訪問した際にも、ちょうど混雑時間とかぶっていたのもあり、たくさんのイヌ・ネコがいました。

動物病院と、私たちが行くような普通の病院とで違う点は、動物が脱走するのを防ぐために、ドアがたくさんあるということや、献血用のイヌ・ネコがセンター内で飼われているということです。それは、輸血用の動物の血は新鮮なものではないといけないからだそうです。また、献血をする際は、1人が抑えてもう1人がやるらしいですが、一気にするのではなく、少しずつクロスマッチをしながらするそうで、献血や手術が成功するかは、ほぼ動物を抑える側の能力にかかっているらしいです。レントゲンをする際は、人間の場合は立って行いますが、動物の場合は寝かせて行います。

一方、動物病院にもCTスキャンやMRIがあるなど共通点もありました。手術室に案内されたとき、ちょうどネコが腹部の腫瘍の切除をされていました。途中からしか見ていなかったのが手術にかかった全体の時間は分かりませんが、腫瘍を取り除いてから縫合し終えるまで、あっという間でした。私は初めて実際の手術現場を見たので、とても、感動しました。

最後に、米澤先生に東京大学附属動物医療センターの魅力をお聞きしたところ、色々な珍しい病気の動物が集まってくることだと仰っていました。また、獣医師になるにあたっての向き・不向きは特になく、その人の獣医師になりたいと思う熱意や志、動物の役に立ちたいという思いが大切だそうです。

しかし、獣医師にも辛いことがあり、それは、ペットがどのような手術をしても助からないときだそうです。そのような場合、そのペットのオーナーさんと安楽死させるかどうかを話し合うらしいのですが、時々安楽死させることに反対するオーナーさんもいるそうです。また、獣医師は医者と同じくらいの学歴が必要ですが、収入はあまり多くはなく、休暇も少ないので、結婚しても離婚するケースが多いそうです。

企業・大学訪問では、様々な貴重な経験をさせて頂きました。ここで学んだことを活かして、将来 楽しみつつ、仕事を頑張りたいと思いました。

Fair Wind 企画

プレゼンテーションをしたお二人の東大生は、東京大学に入学した理由が全く異なっていました。一人は、自分の将来の夢から逆算して大学を選び、もう一人は将来の夢が決まっていなかったため、視野が広がるという理由で東京大学を選んだそうです。私は二人目のプレゼンテーションを聞いて、大学に入ってから将来を決めることも可能なんだなと思いました。また、他の東大生と話をして感じたことは、私たちが抱えている東大へのイメージと実際の東大は違うということです。例えば、私たちが「東大生」と聞いてイメージするような優れた方もいますが、その方は東大の中でもさらに優れている人なのであって、東大生は普通の人が多いそうです。それを聞いて私は、私が二高に入学する前の二高に対する印象と似ていると感じました。

2 日間の東京研修を通して、一番に思ったことは、どの企画でも今後 進路を決定する際とても役に立つ情報得ることが出来たということです。

最後になりましたが、この東京研修のために準備を下さった先生方 参加させてくださった両親をはじめ、この研修に関わった方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。